

(2) 中学校第2学年

ア 勉強について

(単位：%)

		そう思う	どちらか といえばそ う思う	どちらかと いえばそう 思わない	そう 思わない	分からない
普段の生活や社会に 出て役立つよう、勉 強したい。	平成20年度	34.2	42.5	14.1	5.6	3.6
	平成23年度	44.5	38.4	11.1	3.5	2.5
	平成26年度	51.5	38.6	6.0	1.8	2.2
国語の勉強が好き だ。	平成20年度	19.3	34.3	28.5	14.3	3.6
	平成23年度	21.5	35.8	27.3	12.9	2.5
	平成26年度	21.2	38.9	26.6	10.8	2.5
国語の勉強は大切 だ。	平成20年度	48.7	37.4	8.3	3.4	2.3
	平成23年度	55.1	33.2	7.3	2.7	1.7
	平成26年度	59.0	31.7	5.9	1.8	1.6
社会の勉強が好き だ。	平成20年度	26.3	32.0	24.7	14.1	2.9
	平成23年度	29.1	32.4	23.9	12.6	2.1
	平成26年度	30.7	34.0	22.4	10.9	2.0
社会の勉強は大切 だ。	平成20年度	30.7	38.1	18.8	8.6	3.7
	平成23年度	37.4	36.6	16.6	6.8	2.6
	平成26年度	43.6	36.3	13.4	4.4	2.3
数学の勉強が好き だ。	平成20年度	23.1	26.6	25.2	21.8	3.4
	平成23年度	25.1	29.1	25.4	17.9	2.5
	平成26年度	29.5	30.4	22.7	15.1	2.4
数学の勉強は大切 だ。	平成20年度	41.7	35.8	12.9	6.7	2.9
	平成23年度	51.0	32.1	10.2	4.9	1.9
	平成26年度	55.4	30.7	8.7	3.4	1.7
理科の勉強が好き だ。	平成20年度	26.3	33.5	23.6	13.9	2.6
	平成23年度	27.8	34.0	23.6	12.5	2.1
	平成26年度	35.9	35.3	18.8	8.3	1.7
理科の勉強は大切 だ。	平成20年度	24.9	34.9	23.9	12.0	4.3
	平成23年度	32.7	34.5	21.1	8.9	2.8
	平成26年度	38.6	35.3	17.5	6.0	2.6
英語の勉強が好き だ。	平成20年度	21.1	28.5	26.8	19.9	3.7
	平成23年度	24.2	30.0	25.9	17.0	2.9
	平成26年度	29.7	32.5	22.9	12.3	2.6
英語の勉強は大切 だ。	平成20年度	38.0	32.5	15.6	9.9	3.9
	平成23年度	47.8	29.9	12.7	7.3	2.4
	平成26年度	56.8	27.0	9.2	4.7	2.2

①概況

- 普段の生活や社会に出て役立つよう、勉強したいと考えている生徒は約9割おり、前々回及び前回調査を上回っている。
- 勉強が好きだと考えている生徒は、理科が約7割で最も多く、社会、英語、国語、数学の順となっている。なお、いずれの教科も、その割合が前回調査を上回っている。
- 勉強は大切だと考えている生徒は、国語が約9割で最も多く、数学、英語、社会、理科の順となっている。なお、いずれの教科も、その割合が前回調査を上回っている。

②課題

- 「普段の生活や社会に出て役立つよう、勉強したい」の項目において、約1割の生徒が消極的な回答をしている。
- 勉強の大切さに気付いていない生徒が、それぞれの教科で約1～2割いる。
- 「勉強が好きだ」の項目については、消極的な回答が、それぞれの教科で3～4割いる。

③今後の対応等

- 授業の導入段階で生徒の興味関心を基に学習課題を設定したり、解決の見通しをもたせたりするなどして、生徒の学習意欲を喚起する。
- 主体的に学習に取り組むことのよさを教え、望ましい姿勢を褒めるようにする。
- それぞれの教科を学ぶ意義について指導する。

イ 授業について

(単位：%)

		よく分かる	だいたい分かる	分かることと分からないことが半分ずつある	分からないことが多い	ほとんど分からない
国語の授業がどの程度分かりますか。	平成20年度	13.2	52.2	28.4	5.1	1.1
	平成23年度	13.3	50.2	29.7	5.7	1.0
	平成26年度	18.0	51.6	24.7	4.6	1.1
社会の授業がどの程度分かりますか。	平成20年度	17.7	40.7	28.1	11.1	2.4
	平成23年度	19.7	39.3	28.0	10.7	2.4
	平成26年度	22.4	40.8	25.1	9.6	2.1
数学の授業がどの程度分かりますか。	平成20年度	20.1	35.0	26.7	13.6	4.7
	平成23年度	20.9	34.5	27.5	13.3	3.8
	平成26年度	26.0	36.1	23.9	11.0	3.0
理科の授業がどの程度分かりますか。	平成20年度	17.1	39.4	29.7	10.9	2.9
	平成23年度	16.9	37.9	30.9	12.0	2.3
	平成26年度	24.9	41.6	24.4	7.3	1.8
英語の授業がどの程度分かりますか。	平成20年度	15.8	32.5	28.6	16.7	6.3
	平成23年度	17.4	32.4	28.6	15.9	5.7
	平成26年度	24.2	35.7	24.5	11.7	3.9

①概況

- 授業が分かると回答している生徒は、国語が約7割で最も高く、次いで理科、社会、数学、英語の順となっている。
- 前回までの調査と比較すると、すべての教科において授業が分かると回答した生徒の割合が上回っている。

②課題

- 英語、数学、社会の授業については、分かると回答した生徒が約6割にとどまっている。

③今後の対応等

- 生徒の実態に応じて、教材研究や指導方法の工夫・改善をする。
- 授業内容の理解に差が見られる場合は、個別指導や少人数指導、補充学習等を、必要に応じて取り入れる。

□ 授業の中で分からないことがあったら、どうすることが多いですか。(複数回答) (単位：%)

	その場で先生にたずねる	授業が終わってから先生にたずねに行く	友人にたずねる	家族にたずねる	塾や家庭教師の先生にたずねる	自分で調べる	そのままにしておく
平成20年度	15.5	15.4	64.0	34.3	12.3	45.2	24.6
平成23年度	16.5	15.6	63.1	32.0	12.5	42.2	24.7
平成26年度	16.6	17.1	66.3	35.8	13.0	47.7	21.2

①概況

- 授業の中で分からないことがあった場合、「友人にたずねる」と回答した生徒が約7割で最も多く、次いで「自分で調べる」が約5割となっている。
- 前回調査と比較すると、「そのままにしておく」生徒は減少している。

②課題

- 授業の中で分からないことがあった場合、そのままにしておくと回答した生徒が約2割いる。

③今後の対応等

- 疑問等があったら、そのままにせず、進んで教師に尋ねる態度の育成と、生徒が自力で調べることが大切であることを指導する。

ウ 授業中の指導について

(単位：%)

		当てはまる	どちらかといえば当てはまる	どちらかといえば当てはまらない	当てはまらない
授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていたと思う。	平成26年度	37.4	44.8	14.9	3.0
授業では学級の中で、互いの考えを話し合う活動をよく行っていたと思う。	平成26年度	28.0	49.0	20.1	2.9
授業のはじめに目標（めあて・ねらい）が示されていたと思う。	平成26年度	37.9	42.5	16.3	3.2
授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思う。	平成26年度	22.0	45.9	26.4	5.6

(上記項目は、今年度新たに設定した。)

①概況

- 授業のはじめに目標（めあて・ねらい）の提示が行われていると回答した生徒は8割を超えている。
- 授業中、生徒が自らの考えを発表したり、互いに話し合ったりする機会が与えられていると回答した生徒は約8割いる。

②課題

- 授業の最後に学習内容を振り返っていると受け止めている生徒は7割を下回っている。

③今後の対応等

- 授業の中で、生徒自身が考えたり、発表したりする活動を行うことは、思考力・判断力・表現力の育成に極めて重要であることから、引き続き取り入れるようにする。
- 授業の最後には、学習内容の定着のために、板書やプリントを用いたり、発表させたりするなどして、振り返り活動を行うようにする。

エ 家庭学習について

普段（月曜日から金曜日）、学校の授業時間以外に1日当たりどのくらいの時間、勉強をしますか。

(単位：%)

	3時間以上	2時間以上、3時間より少ない	1時間以上、2時間より少ない	30分以上、1時間より少ない	30分より少ない	全くしない
平成20年度	2.4	10.6	30.4	30.9	15.3	10.3
平成23年度	3.9	16.8	37.4	25.6	10.1	6.1
平成26年度	4.4	20.5	40.0	23.6	8.1	3.3

□土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。

(単位：%)

	4時間以上	3時間以上、 4時間より 少ない	2時間以上、 3時間より 少ない	1分以上、 2時間より 少ない	1時間より 少ない	全くしない
平成26年度	3.8	12.8	28.7	32.9	17.3	4.4

(上記項目は、今年度新たに設定した。)

□普段（月曜日から金曜日）、家庭でしている勉強は、次のうちどれに近いですか。（複数回答）

(単位：%)

	ほとんど 勉強しない	宿題が出れば、 宿題をする	試験があれば、 それにそなえて 勉強する	予習や復習を する	興味があることについ て自分で調べたり、た しかめたりする
平成20年度	11.4	76.6	59.8	23.9	15.7
平成23年度	9.3	79.0	59.8	26.2	17.0
平成26年度	6.3	82.0	60.3	31.6	17.4

①概況

- 平日、学校の授業時間以外に、1日に2時間以上（「2時間以上」には「3時間以上」を含む）勉強している生徒の割合は3割を切っているが、前々回、前回調査と比較すると増えている。
- 休日に、1日当たり3時間以上（「4時間以上」を含む）勉強している生徒は2割に満たない。

②課題

- 平日、休日とも、生徒の家庭学習の時間が不足気味である。
- 休日でも家庭学習を全くしない生徒が約4%いる。

③今後の対応等

- 中学校として、ふさわしい家庭学習の仕方や時間等について、校内で共通理解を図り、全校体制で指導する。
- 生徒が家庭での学習の拠り所とするため、授業中にノートを整理できるよう、ノート指導を工夫をする。
- 家庭での学習につながるように授業のまとめ段階を工夫したり、教科ごとに家庭での学習方法を具体的に指導する。
- 家庭学習の時間を確保するために、生徒に家庭生活の過ごし方を振り返る活動を行ったり、保護者の協力を求めたりする。

オ 生活について

□普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどのくらいの時間、睡眠をとりますか。（単位：％）

	10時間以上	9時間以上、 10時間より 少ない	8時間以上、 9時間より 少ない	7時間以上、 8時間より 少ない	6時間以上、 7時間より 少ない	6時間より 少ない
平成20年度	2.1	4.7	16.7	31.9	31.4	13.1
平成23年度	2.0	4.9	18.8	34.6	28.8	10.9
平成26年度	1.9	5.2	17.5	33.6	29.3	12.5

□学校に行く前に朝食をとりますか。（単位：％）

	必ずとる	たいていとる	とらないことが多い	全く、または、 ほとんどとらない
平成20年度	78.2	14.8	4.4	2.6
平成23年度	81.2	12.5	3.9	2.3
平成26年度	79.6	13.7	4.2	2.5

①概況

- 平日の1日の睡眠時間については、約6割の生徒が7時間以上とっている。また、この傾向は、この6年間ほとんど変わっていない。
- 朝食については、約9割の生徒がとっている。また、この傾向は、この6年間変わっていない。

②課題

- 睡眠時間が7時間を下回っている生徒が約4割いる。
- 朝食をとらない生徒が約7％いる。

③今後の対応等

- 学校生活を送る上で、朝食摂取や起床時刻など規則正しい生活が重要であることを生徒に継続して指導する。
- 家庭での生活・学習習慣と学力との間には相関関係がある。生徒の家庭環境を理解した上で、基本的な生活習慣の確立のため、家庭の理解と協力を求めるようにする。

□普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどのくらいの時間、テレビやビデオ・DVD等を見ていますか。（テレビゲーム、コンピュータゲーム、携帯式のゲームを含みます。）（単位：％）

	4時間以上	3時間以上、 4時間より 少ない	2時間以上、 3時間より 少ない	1時間以上、 2時間より 少ない	1時間より 少ない	全く、または、 ほとんど 見ていない
平成26年度	13.1	13.7	25.0	26.7	16.1	5.3

（上記項目は、今年度新たに設定した。）

□普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどのくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか。（携帯電話やスマートフォンを使ってゲームをする時間は除きます。）（単位：％）

	4時間以上	3時間以上、 4時間より 少ない	2時間以上、 3時間より 少ない	1時間以上、 2時間より 少ない	30分以上、 1時間より 少ない	30分より 少ない	携帯電話やス マートフォンは 持っていない
平成23年度							68.1
平成26年度	6.0	5.8	9.9	14.0	10.6	13.2	40.6

（上記携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットの使用時間に係る項目は、今年度新たに設定した。平成23年度の本県調査では利用内容が「通話やメール」、利用時間に関して「ほぼ毎日している」「ときどきしている」「全く、または、ほとんどしていない」「携帯電話は持っていない」の4段階でアンケートを実施しているため、「携帯電話やスマートフォンは持っていない」の項目のみ参考値として掲載した。）

①概況

- 平日、テレビ等の視聴やゲーム等に充てている時間は、1～2時間が約27%で最も多く、次いで2～3時間が約25%となっている。
- 平日、スマートフォンやインターネット等の利用に充てている時間は、1～2時間が14%で最も多く、次いで30分未満が約13%となっている。

②課題

- テレビ等の視聴やゲーム、スマートフォン等に多くの時間をかけている。
- スマートフォン等の所有率は約6割となっており、前回調査と比較すると、3年間で約3割増加している。

③今後の対応等

- 校内においては、継続的に全教職員で情報モラル教育に取り組むようにする。
- 情報モラルやマナー、有害な情報に接した時の対処方法等について、生徒に具体的に指導・啓発するようにする。
- 家庭での生活の見直しはもちろんであるが、長時間電子機器を使用することの身体・健康への影響について、生徒はもちろん保護者にも理解してもらうようにしましょう。
- 参観日や地域懇談会、学級・学年通信等で、スマートフォン等の利用のきまりや利用時間を家庭で決めるよう、働きかける。

カ 読書について

□学校の授業以外で1日にだいたいどのくらい読書をしますか。（単位：％）

	1時間以上	30分以上、1時 間より少ない	10分以上、30分 より少ない	10分より少ない	全く、または、 ほとんどしない
平成20年度	8.6	13.2	23.8	11.6	42.7
平成23年度	10.1	16.7	22.2	11.3	39.7

平成26年度	11.3	16.7	23.6	11.4	37.0
--------	------	------	------	------	------

①概況

- 平日の読書は、「しない」と回答した割合が約4割で最も多く、次いで10～30分が約2割の順になっている。この傾向は、前回調査からあまり変わっていない。

②課題

- 平日、「読書をしていない」と回答した生徒が約4割もいる。

③今後の対応等

- 読書の大切さやよさについて、改めて生徒に指導するとともに、自主的に読書をするよう、指導の工夫をする。
- 朝読書やブックトークなどの読書活動を日常の教育活動に取り入れる。
- 読書の時間の確保に努めるよう、生徒や家庭に働きかける。

キ 進学について

□将来どの学校まで進みたいですか。

(単位：%)

	中学校まで	高校まで	短大まで	大学まで	その他の学校まで	分からない
平成20年度	0.7	31.3	7.8	36.8	7.1	16.4
平成23年度	0.4	29.9	7.5	40.7	6.1	15.5
平成26年度	0.5	28.8	8.6	44.0	5.4	12.5

①概況

- 大学まで進みたいと考えている生徒が4割を超えて最も多く、次いで高校までが約3割となっている。
- 高校以上（「高校以上」には、「その他の学校」を含む）の学校まで進みたいと考えている生徒は9割近くにのぼり、前回調査を若干上回っている。

②課題

- 自分の進路について「分からない」と回答した生徒が1割以上いる。

③今後の対応等

- 生徒に、適切な時期に適切な進路に関する情報を提供するとともに、教師が一人一人の生徒とじっくりと話し合う機会を設ける。
- 小・中学校9年間を見通したキャリア教育の計画を作り、継続的な指導を行うようにする。
- 県教育委員会が作成した『あおもりっ子キャリアノート』等を積極的に活用する。

ク 自己肯定感や夢等について

(単位：%)

		当てはまる	どちらかといえば当てはまる	どちらかといえば当てはまらない	当てはまらない
自分には、よいところがあると思う。	平成26年度	19.3	44.7	25.1	11.0
将来の夢や目標を持っている。	平成26年度	46.9	27.8	15.2	10.1

(上記項目は、今年度新たに設定した。)

①概況

- 「自分には、よいところがある」と思っている生徒は、6割を超えている。
- 夢や目標を持っている生徒は、7割を超えている。

②課題

- 「自分には、よいところがある」と思えないでいる生徒が約36%いる。
- 4人に1人の生徒が、将来の夢や目標を持ってないでいる。

③今後の対応等

- 授業やその他の教育活動の中で生徒に一人一人に役割を与え、活躍できるようにする等、自己肯定感をもたせる指導を行う。
- 褒めたり、認めたりすることで自信をもたせる。
- 職場体験をさせたり、先輩の体験談を聞かせたりするなどして、キャリア教育の充実を図る。

(3) まとめ

勉強については、前向きに努力したいと思っている児童生徒が非常に多いことから、今後も、児童生徒一人一人のよさや努力を認め、意欲的に勉強に取り組もうとする気持ちや態度を育てることが大切である。また、児童生徒のやる気を学校生活の様々な場面で生かすことができるように、何をどうすればよいのか具体的に考えさせる機会を与え、必要に応じて個に応じた指導や助言を行うことが大切である。

授業が分かると回答した割合は、小学校では、理科の約9割を最高に、算数、国語、社会が続ぎ、いずれも約8割である。中学校では、国語の7割が最高で、理科、社会が続いている。また、小・中学校いずれの教科も、前回調査よりも、その割合が増えており、授業が改善されていることがうかがえる。

今後も、児童生徒の実態を十分に把握した上で、児童生徒の興味関心を大切にし、予想されるつまづき等に配慮した授業実践を進めていくことが大切である。

授業中の指導については、小・中学校ともに学習内容を振り返る活動が十分に行われていない。学習の振り返り活動は、学習内容の定着などに有効であることから、今後、1時間の授業の終わりに、学習内容を振り返る機会を必ず設け、学習したことを自分の言葉でまとめさせるなどの振り返りの学習活動を行うことが大切である。

家庭学習については、年々、小・中学校とも家庭学習の時間が長くなってきているが、その時

間が十分に確保されているという状況には至っていない。

今後は、小学校高学年では平日1時間以上、中学校では平日2時間以上の学習時間を確保するよう、児童生徒に指導するとともに、家庭にも協力を求めるようにしたい。

睡眠時間については、多くの児童生徒が適正な時間を確保している一方で、その時間が極端に少ない者もいる。適正な睡眠時間の確保及び毎日の朝食摂取が、生活リズムの安定、学力向上及び健康増進につながることから、今後も引き続き、児童生徒の基本的な生活習慣の定着について、家庭との連携を図りながら、指導することが大切である。

スマートフォン等の所持率は小学校が約4割、中学校では約6割と、前回調査と比較して大幅に増加している。

今後は、ゲーム等の時間が長くなることによって引き起こされる様々な弊害、スマートフォン等の依存による生活習慣の乱れ、インターネット上の違法・有害情報サイトのトラブルに児童生徒が巻き込まれるケース等について理解させるなど、発達の段階に応じた体系的な情報モラル教育を推進していくことが必要である。

読書については、習慣化している児童生徒も多くなりつつあるが、約2～4割の児童生徒があまり読書をしていない状況にある。

今後は、読書の大切さや楽しさについて、児童生徒の実態に応じて粘り強く指導を行う等、望ましい読書習慣の形成を図るための取組を引き続き行う必要がある。

進学については、小・中学校ともに、より上の学校へ進みたいと考えている児童生徒が多くなっている。また、多くの児童生徒が夢や目標をもっている一方で、自己肯定感については、十分身に付いていない状況が見られる。

今後は、児童生徒一人一人のよさを認めたり、励ましたりしながら、それぞれの可能性を広げていくことが大切である。また、児童生徒の実態に合わせて、キャリア教育を一層推進していくことが大切である。